

対象国の条件 : 東南アジア、南アジア、大洋州、中近東、中央アジア5か国

研修コース番号 : 201984712-J002

案件番号 : 201984712

主分野課題 : 農業開発/園芸・工芸作物

副分野課題 :

使用言語 : 英語

案件概要

開発途上国の貧困層の多くが小規模な家族経営による農業により生計を立てている。しかし、適切な指導ができる普及員の育成や研究体制が十分に整備されておらず、生計向上に結びつくような野菜生産技術及び経営指導を農家が受けられていない。本コースは、野菜の生産技術開発・普及に関わる農業技術者らの小規模農家の野菜生産技術の習得を目指す。有用技術適用のための計画・実施能力を含めた野菜生産技術に関する総合的な能力を育成する。

目標/成果	対象組織/人材	
<p>【案件目標】 研修員が小規模農家の農家経営改善のために必要な野菜生産技術に関する総合的な能力を習得する</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自国の小規模農家における野菜生産の現状と課題の分析 2. 商業的野菜生産技術の習得 3. 農家経営指導技術の習得 4. 農業技術の普及方法の理解 5. 有用技術を適用するための計画・実施能力の習得 	<p>【対象組織】 野菜の生産技術研究または普及を実施する公的機関</p> <p>【対象人材】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職務：野菜の生産技術研究または普及に関わる農業技術者 2. 経験：3年以上の実務経験（野菜生産関連） 3. 農学の学位を持つ者（但し、博士号を未取得の者） 4. 年齢：25-40歳であることが望ましい。 	
<p>内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自国の小規模農家における野菜生産の現状と課題の分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) インセプションレポートの作成・発表、個別面接、課題分析と整理、発表、討論 2. 商業的野菜生産技術の習得 <ol style="list-style-type: none"> (1) 品質および生産性向上のための野菜生産技術 野菜の作型、植物生理と野菜生産技術、野菜の安全管理、持続的農業と野菜生産技術、種子の特性と育苗技術、土壌、適正施肥技術、栄養生理と生育診断、灌漑技術、病害虫診断と防除、施設利用と環境制御、収穫後処理、環境保全型技術 (2) 野菜種子生産技術 (3) 共通実験及び圃場実習 実験の実施・発表、調査・記録、栽培管理 3. 農家経営指導技術の習得 <ol style="list-style-type: none"> (1) 所得向上のための経営技術 農産物の安全・安心、農産物の付加価値化、生産計画、農産物の流通・販売、市場ニーズの把握、農業経営 4. 農業技術の普及方法の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研修と普及の連携 農業普及、試験研究、農業協同組合 5. 有用技術を適用するための計画・実施能力の習得 <ol style="list-style-type: none"> (1) アクションプランの作成・発表 課題解決手法、レポート作成、発表、討論 	<p>本邦研修期間</p>	<p>2020/3～2020/8</p>
	<p>担当課題部</p>	<p>農村開発部</p>
	<p>所管国内機関</p>	<p>JICA筑波（研修業務）</p>
	<p>関係省庁</p>	
	<p>実施年度</p>	<p>2018～2020</p>

主要協力機関 国際耕種株式会社

特記事項
及び
ホームページ